

第三章活用事例

小学校一・二年生版「心あかるく
「ごほうび」

p.96
～
p.97

中心資料

道徳教育推進資料 平成四年 文部省
「ごほうび」

【主題名】 ありがとう

第一学年及び第二学年 2-(4)

「ごほうび」の世界になっている人々に感謝する。

【ねらい】 日ごろ自分たちがお世話になっている人々に対して感謝する心情を育む。

《ねらいとする道徳的価値について》一・二年生の時期の児童は、自分が多くの人に支えられながら存在していることに気付けないことがあります。日々の生活を支えてくれている人々の存在に気付いて感謝の気持ちをもつことや、その感謝の気持ちを言葉で伝えることの大切さを実感させることで、互いに尊重し合い、自分も誰かの支えとなっていることとする姿勢を身に付けさせることが大切です。

導入



「大人の人に『ありがとう』と言ったことはありますか。それは、どのようなときでしたか。」

○導入では、「家族愛」の授業にならないように、家族以外でお世話になっている人に意識を向けさせましょう。

○教師が「ごほうび」を読み聞かせましょう。



「ゆきおさんは、どのような気持ちでラジオ体操に出ているのでしょうか。」

○「ゆきおさんは、けさも一ばんのりね。」という部分に着目させて、ゆきおが意欲的に参加していることに気付かせましょう。



「おばさんたちが、朝早く来て、水まき、そうじ、体操、ハンコ押しなどをしているのを見て、ゆきおさんは、どのようなことを感じたのでしょうか。」

○「ぼくも 水まきや ごみひろいを 手つだうように になりました。」という部分に着目させて、ゆきおがおばさんたちに対して感謝し、自分でできることをしようとしていることに気付かせましょう。



中心発問

「『おばさんたち』『ごほうびは ないのよ』と聞いたとき、ゆきおさんはどのようなことを考えたのでしょうか。」

○「おばさんたちに なにかしてあげたいな」というゆきおの心の声に着目させて、ゆきおが感謝の気持ちを伝えたいと知っていることに気付かせましょう。

《評価》 自分たちのために善意で奉仕的な活動をしてきている人々への感謝の気持ちの大切さに気付くことができたか。



「みなさんは、日ごろ、どのような人にお世話になっていますか。その人たちに、ありがとうの気持ちを伝えましょう。」

○「心あかるく」 p.96
「いつも ありがとう」に、日ごろお世話

になっている人々への感謝の気持ちを書きこませましょう。

○教師が、子供たちの見えないところで奉仕的な活動をしてくださっている方について、子供たちに語りましょう。

○「心あかるく」 p.14 ～ p.15 「ありがとう」をみんなで読み、感謝を伝えることの気持ちよさを確かめて、授業のまとめにしましょう。

板書例

ごほうび

大人の人に「ありがとう」と いったことは ありますか。それは、どのような ときでしたか。

児童が挙げた、お世話になっている人を
書き留めておく。

ゆきおは、どのようなきもちで ラジオたいそうに
出ているのでしょうか。

- まいにち やすまず がんばろう。
- まいあさ 一ばんのりで ひろばに いこう。
- きょうも げんきに たいそうを しよう。
- おばさんたちが あさはやく きて、みずまき、そうじ、たいそう、ハンコおしなどを しているのを みて、ゆきおさんは どのようなことを かんじたのでしょうか。

おばさんがは
んこを押して
いる挿絵

- ぼくたちよりも はやく おきて じゅんびを してくれているなんて すごい。
- ぼくたちの ために いろいろと してくれて ありがとう。
- おばさんたちのために ぼくに なにか できないかな。

ゆきおが考えている挿絵

- ごほうびも ないのに ぼくたちのために いろいろと してくれていたのか。
- おばさんたちにも ごほうびをあげて ぼくとおなじように よろこばせたいな。
- どうすれば ありがとうの きもちを おばさんたちに つたえられるかな。

- まいあさ、おうだんほどうにいる おじさん。いつも あんぜんをまもってくれて、ありがとう。
- よみきかせを してくれる おかあさんたち。ほんの たのしさを おしえてくれて ありがとう。

《評価》 日ごろ自分たちがお世話になっている人々に対して感謝する心情を育むことができたか。

終末

展開